

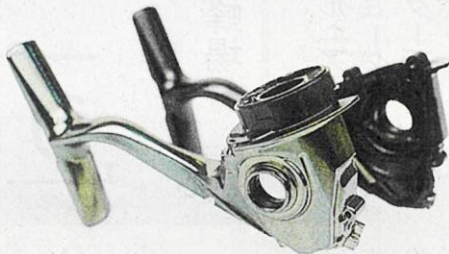
リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）は釣り具製造大手のシマノ（堺市）と協業し、廃自動車から回収したマグネシウムを釣り具のリールへ再生利用する事業に乗り出した。リサイクル製品は割高になるケースが多いが、岡山県内の事業所と連携して部品の製造までを手がけることで輸送距離を縮め、コストダウンを実現。環境に配慮した商品としてシマノが製品化を検討する。（橋本直樹）

マグネシウム 釣り具に再生

平林金属 廃車から回収、シマノのリールに



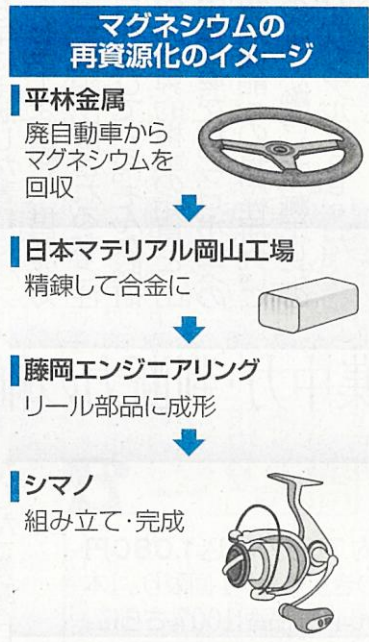
平林金属が廃自動車のハンドルから回収したマグネシウム



マグネシウムのリサイクル材で作られたリールの試作部品

平林金属は昨春、シマノ側からリール向けにマグネシウムのスクラップの供給依頼を受け、事業化を検討。廃自動車を解体するグループ工場（倉敷市玉島乙島）で、独自のリサイクル技術によってハンドルからウレタンを除去し、高純度のマ

グネシウムは実用金属で最も軽く、丈夫で熱を逃がす性質を持つ。自動車ではハンドルの骨格に使われるが、その周りを固めるウレタン樹脂と分離するのが難しく、リサイクル後の活用方法も限られるため、再生利用が進んでいないという。



グネシウムを安定して抽出できることを確認した。県内の事業所とも協力し、金属の精錬の知見を持つ日本マテリアル岡山工場（総社市東阿曾）がマグネシウム合金に加工。精密機械部品メーカーの藤岡エンジニアリング（真庭市下市瀬）がリールの部品に成形する計画で、シマノへの部品供給を目指す。リールでは、軽量で丈夫なマグネシウム製はハイエンドモデルに多く使われる。試作段階では同社の品質基準をクリアしており、再生利用品としての製品化を検討している段階という。

岡山県内事業所で連携 部品製造コスト削減

国内で使われるマグネシウムの多くは中国から輸入され、鉱石からの製錬工程や長距離輸送で大量の二酸化炭素（CO₂）を出している。今回のプロジェクトでは、県内で再生原料の抽出から部品の生産まで行つたため輸送コストを削減するとともに、CO₂の排出量も大幅に減らせるといふ。

さらに、輸入に頼らず国内で資源を循環できることから「経済安全保障」の面でもメリットがあり、今後はさらなる需要拡大が見込まれる。平林金属は「マグネシウムをより多く回収できるように技術向上に努め、取扱量を増やしていきたい」としている。

同社は1956年創業、60年設立、資本金9980万円、グループの売上高283億円（2025年12月期）、従業員558人。資源循環事業では昨春から、JR西日本（大阪市）などと連携し、駅や電車で回収した忘れ物のビニール傘を、新たな傘へ再生する事業を始めている。